

## 卒業レポート A・B (言語①)

担当 小林 茂之

2018年度の「卒業レポート A・B」は、履修者が研究を卒業レポート A、または卒業論文に書き上げる過程で、研究テーマ、研究方法、研究目的を探求しながら自由に討論しあうというゼミ形式で行われた。

春学期の「卒業レポート A」のゼミ履修者は、115J015 江郷杏奈、115J051 野田洋輝であった。江郷さんは、英語に **furniture** のような集合名詞、**fish**、**sheep** のような単複同形の複数名詞があることに関心を持ち、複数語尾を持たない日本語においてどのような対応する現象があるのかを考察した。メタファー表現に着目することで、比較の手がかりを得た点は認知言語学のテーマとして評価されるべきものであった。野田君は、日本語から英語への影響、英語の日本語への影響について、言語接触の観点から研究を進め、秋学期に卒業論文にまとめた。**Haiku** (俳句) が言語文化のレイヤーで英語圏で受け入れられている点に着目した点は研究の発展の可能性からみて評価できる。

江郷 杏奈「日本語と英語における集合名詞と複数名詞—メタファーの観点から」(卒業レポート A)

野田 洋輝「近代英語と日本語の対照言語学—言語接触の観点から」  
(卒業レポート A・卒業論文)